



KTCC NEWS



2021年6月

新たな出会いに感謝！ 大阪府S社



S社では現在、元実習生であるベトナム人女性5名を暫定的な在留資格で雇用しています。彼女たちは、特定技能の在留資格を得るべく一定の期間内に評価試験に合格することを目指している特定活動者です（新型コロナウイルスに係る特例措置に基づく）。今に至った経緯、彼女たちとS社の取り組みについて、S社のご担当Yさんにお話を伺いました。

雇用の背景（実習生）

彼女たちは昨年他社（A社）にて技能実習2号を満了し、引き続き特定技能外国人として日本に残ることを希望しました。A社での雇用は困難とのことで、当組合にて就労先を模索。その中で、雇用に向きなS社と出会いました。問題は実習職種が電子機器組み立てであったのに対し、S社で行うのはプリント配線板製造であったこと。彼女たちの保有資格では制度上、そのまま特定技能へ在留資格を変更することはできません。そこで前述の在留資格「特定活動」でS社に就職することを希望しました。

雇用の背景（S社）

実習生の受け入れ経験はあるものの、S社にとって彼女たちは、職種も国籍も初めての人材。加えて特定技能評価試験に合格させなければなりません。決して好条件とは言えない中で、不安を抱えながら面接したそうです。ところが実際彼女たちに会ってみると、想像以上に表情が明るく、笑顔で面接に臨んでいたとのこと。その姿にS社は「なんとかなるのではないかと判断、5名全員の採用が決められました。」

合格に向けた勉強会

兎にも角にも、彼女たちを試験に合格させないことには話が始まりません。「絶対に合格させる！」と使命感に燃えたYさんは、どうやったら彼女たちが効率よく学習のかを考えて教材を手作りし、勉強会を開きました。

特定技能評価試験結果

試行錯誤しながら指導した結果、5名中3名が初挑戦で合格しました。不合格の2名はあと一歩の成績。日本人社員から見ても難しい内容であったため、社内での彼女たちの評価は高くなりました。惜しくも不合格だった2名もS社にとっては大切な社員です。合格に向けた勉強会を再開します。

これから・・・

彼女たちはそれぞれが工程の一部を受け持つ仕事をするため、「勉強会」で学んだ内容のうち、直接仕事に関係するのはほんのわずかです。しかしS社では、それを無駄なことだとは考えていません。試験のためだけの勉強会ではなく、「自分たちの工程の前にたくさんの方が関わって今の工程がある」と後の工程に迷惑がかかる」ということを学ぶ場であると考えています。彼女たちにはチームワークを大切にすることを促してほしと願っているからです。

S社とご縁があったことを、彼女たちはもちろん、我々組合スタッフもとても嬉しく思っておりま。彼女たちが即戦力となり、後輩の指導をしながら活躍する日が待ち遠しく仕方がありません。

実習生の携帯電話事情

実習生は自国よりスマートフォンを持参しています。ほとんどの寮では「LINE」が使えるので、SNS等で家族や友達に連絡するのに不自由はありません。

ところが、一般の音声通話については事情が異なります。自分自身で携帯電話会社と契約しているのは稀であり、①寮に固定電話が引いてある②企業より各部屋に1台携帯電話が支給されている③一般の音声通話ができない、と状況は様々。例えば体調不良で休みの連絡をしたい時、①②の実習生は自分自身で会社へ電話、③の実習生は会社の担当者へライン等で連絡すればよいとされていることが多いようです。ここで気になるのが、警察や消防への緊急電話です。実際、外出中に救急車の要請が必

要となる事案が発生。その時は、近くにいた日本人に助けを求め、電話をしてもらって事なきを得ました。寮にいる場合は、SNSの通話機能を使って組合サポート担当者や会社の人に連絡したり、近隣の日本人に助けを求めたりといった方法を取っています。

慣れないままに契約してしまうとトラブルにつながる可能性があるため、全ての実習生が音声通話可能な携帯電話を持つのは難しいのが現状です。緊急事態はいつ起こるか分からないので、その時にどのように対処するのが事前には話し合っておく必要があります。



日本語教師によるフォロー ～日本語スピーチ編～

当組合では毎月の定期訪問時に、実習生による日本語スピーチを行っています。この日は入国後講習を担当する日本語教師と共にI社へ同行し、13名のスピーチを傾聴しました。

I社ではテーマを各自に委ねています。今回は「金継ぎ」という難しい言葉について調べている実習生がいました。日本語教師は、よく調べて文章にしていることを評価しつつ、「日本人に聞いてもらう時は難しい言葉を使ってもよいが、せつかくなら他の実習生にも理解してもらいたいので、この場ではできる限り控えた方がよい。」と、聞き手のことを考えた内容にすることも大切だとアドバイスしました。さらには全ての実習生に対し、良かった点と改善すべき点を伝え、スピーチの質、日本語力が向上することを願いました。



★下書き段階での準備
漢字にはふりがなをふった上で、必ず読む練習をしておく。書くときに区切っておくと読みやすい。

★文法の注意点
「です」「でした」、「これ」「それ」を正確に。間違っていると話が分かりづらくなる。

★文章構成について
「思ったこと↓調べたこと↓調べてみたら違っていたこと」のように、ストーリーを作ると聞き手の興味を引く。

★語彙
新しい言葉を調べた際には、他にどんな場面で見えるのかも調べてみる。似た意味の既知の単語（例：光景↓景色）がないか考える。

Kansai Technical Cooperation Center
協同組合関西技術協力センター
一般監理団体／登録支援機関



本部外観



～ 世界の人々に日本を好きになってもらう ～

協同組合関西技術協力センターは、2002年に設立された外国人技能実習制度における受け入れ監理団体です。2019年には特定技能制度における支援機関として登録されました。教育・各種サポートは、受け入れ企業様に好評を頂いております。「日本企業と諸外国との架け橋になりたい」「日本で成長した若者を世界中に増やしたい」そのような想いで日々活動しております。「何の知識もないけれど...」「実習生と直接話してみたい」等々、お気軽にお問い合わせください。

発行・お問い合わせ ▶ 大阪本部 広報課 TEL:06-6333-2373 (平日9時～18時)

大阪本部 〒561-0832 大阪府豊中市庄内西町1丁目3番15号

名古屋事務所 〒453-0013 愛知県名古屋市中村区亀島2丁目14番10号フジオビルディング4F

広島事務所 〒730-0051 広島県広島市中区大手町3丁目8番1号 大手町中央ビル10F